

# 齊藤中国総合通信局長が広島市立大学等の『みみスイッチ』を視察

平成26年1月31日(金)、齊藤一雅中国総合通信局長は、広島市中小企業会館総合展示館(広島市西区)で開催された「第12回ビジネスフェア中四国2014」に出展された公立大学法人広島市立大学等による「みみスイッチ」の展示ブースを視察しました。

「みみスイッチ」は、耳に装着するワイヤレス外耳デバイスで、装着した高齢者等のそしゃく、心拍、体温等の生体データ(生活行動データ)を内蔵センサーによって検知し、これを本人が携帯するスマートフォンを経由して医療情報データベースに送信・蓄積するものです。

広島市では、この「みみスイッチ」を活用した高齢者の健康見守りや生活支援システムの構築を目指しており、市民病院や地元の自動車関連企業等産学官医の連携による「広島発高齢者見守り支援システム開発プロジェクト推進協議会」を設置し、「みみスイッチ」の開発や見守り・生活支援システムの実用化に向けた取り組みを進めています。

展示ブースを視察した齊藤局長は、実際に「みみスイッチ」を装着し、機能や使い勝手を体験した後、提唱者であり、プロジェクトリーダーを務める広島市立大学の谷口和弘氏、デバイスの開発を担当するNSウエスト株式会社常務取締役の香本益征氏、行政の立場から本プロジェクトを推進する広島市ものづくり支援課長の天野博司氏に話を伺いました。

谷口氏は、「耳に装着するため煩わしくなく、本人が意識しなくても生活の中で健康をサポートしてくれる。今後は道案内などの便利な機能や楽しいコンテンツを準備することで生活のベストパートナーとなる装置にしていきたい」、香本氏は、「弊社は自動車関連部品の開発・生産を行う企業だが、自社デザイナーもあり、耳を塞がずフィットする形状のものを開発することができた。今後は分離している本体とセンサーの一体化や軽量・コンパクト化を追求するとともにファッションブルなものにしていきたい」、天野氏は、「広島市の自動車関連産業の強みを生かした新しい製品やサービスを作りたいとの思いと、仕事や雇用を増やしたい企業のニーズがマッチし、さらに、「みみスイッチ」というシーズと地元のICT企業がコラボすることで素晴らしいイノベーションが生まれるのではないかと期待してプロジェクトを始めた。今後は実証実験も予定しており、地域の皆さんに使っていただくために後押しをしていきたい」と、課題と展望を話されました。

視察を終えた齊藤局長は、「今年は無エアラブル元年と言われているがイヤホンタイプのは面白い。アクティブシニア(元気な高齢者)が活躍する社会づくりに貢献する大きな可能性を秘めている。成功するように最大限応援していきたい」と、感想を述べました。中国総合通信局では、超高齢社会を迎え、『スマートプラチナ社会』の構築を実現するため、自治体や企業による取り組みを応援していきます。



展示の様子(上)と「みみスイッチ」(右)



「みみスイッチ」を装着し機能について質問する齊藤局長(右)



広島市立大学の谷口氏(左)に話を聞く齊藤局長(右)



NSウエスト(株)の香本氏(左)に話を聞く齊藤局長(右)



広島市の天野氏(左)に話を聞く齊藤局長(右)